

ZOOM カフェ 「先輩に聞こう!先輩と話そう!」

令和3年2月6日

2月6日(土)に「コロナ禍の学校」と「養護教諭の仕事」をテーマに Zoom カフェを開催し、本学卒業生で現職の養護教諭として働く4名の先輩方にお話をいただきました。

今回お話しいただいた先輩方

- ✿ 金森友希さん(気仙沼市立大谷小学校) ✿ 高橋里沙さん(気仙沼市立面瀬小学校)
- ✿ 中津川瑞希さん(小国町立叶水小学校) ✿ 及川智慧さん(宮城県石巻高等学校)

第一部 健康教育専攻特別研究 コロナウイルスプロジェクト「コロナ禍の学校」

コロナ禍の学校での予防策は、手洗いうがいやマスクの着用、換気など基本的な部分を徹底して行っていることが分かった。また、マスクやアルコール消毒等はアレルギー対応を起こす生徒もいるため、使用を最小限にしたり、種類を変えたりして対応している。さらに、自粛期間で乱れた生活リズムを整えることを目的として、メディアコントロールにも力を入れている。使用場所や器具の消毒は、先生方に協力していただいて分担しながら行っている。高等学校では生徒も積極的に消毒活動に携わり、学校全体で予防意識を高めることにつながっている。

◇質疑応答◇

Q1. 歯みがきはどのようにしているか。

A1. うがいで代用している、手で口をおさえてみがく、

水道の使用時間や場所を学年ごとにずらし、うがいは水を吐き出す時には姿勢は低くするよう指導している。

Q2. コロナ禍で保健室対応の仕方の変化や環境づくりで注意すべきことはなにか。

A2. 発熱者がでた場合は、体温計の使い分け(非接触型・脇下)、部屋を隔離している。ベットシーツは使い捨てのものを使用したり、洗うものを分けて洗濯をしたりしている。毛布など洗うのが難しいものは除菌スプレーを使用するなど、常に清潔にするようにしている。

第二部 キャリア支援セミナー 健康教育専攻と私のキャリア形成「養護教諭の仕事」

養護教諭は子どもと大人をうまくつなげる仕事であり、その職務内容は幅広く、それぞれの学校で求められるニーズに臨機応変に対応していくことが必要である。具体的な仕事内容は、保健関係の仕事を主として、それ以外にも給食の発注や毎日の準備、掃除用具の点検や事務作業など様々である。これらの業務をこなしていくためには、何か気になることがあったら一人では判断せず、まわりの教員に相談して連携を図っていくことが大切である。養護教諭は、学校内外多方面に常にアンテナを張りながら、学校をコーディネートする重要な役割を担っている。

◇質疑応答◇

Q1. 働いて一番想像と異なったことはなにか。

A1. 教育実習校との違い、教育委員会にうまく対応してもらえないこと

部活動をもつこと、事務的な業務も行うこと

Q2. 学校の中で一番相談相手になる人は誰か。

A2. 相談内容に応じて相手もかわる、同世代の先生と話してリフレッシュする、

Q3. 大学生活でしておいたほうがよいことはなにか。

A3. 不特定多数の人と話す機会を設ける(バイトなど)、勉強をする習慣をつける、

同い年以外の人との関係を築く(縦のつながりを大切にする)、趣味を見つける、

ネイルや髪色など学校で働いたらできないことを十分に楽しんでおく

今回たくさんのお話を聞いて、コロナ禍の教育現場の現状や、学校で求められている養護教諭の役割について知ることができました。養護教諭は、参考書通りにはいかない多忙な職務であることを理解すると同時に、その分生徒や保護者また他教職員から大きな信頼と期待を寄せられている存在であると感じました。今回学んだことを、今後の学生生活にも生かして、先輩方のような温かい雰囲気をもつ頼れる養護教諭になれるようがんばっていきます。